

# 社会インフラ長寿命化行動方針（R6.3） 概要版

## 1. はじめに

- 静岡県では、「社会資本長寿命化行動方針」（H25策定）により、予防保全型管理への移行等を進め、効率的・効果的な社会インフラの維持管理に取り組んできた。
- これまでの取組状況に加え、近年の社会インフラの老朽化の加速やインフラを取り巻く社会情勢等の変化を反映し、「持続可能なインフラメンテナンス」の実現を目指し、新たな行動方針を策定する。

目指すもの

## “持続可能なインフラメンテナンス”の実現

## 2. 現状と課題

現状	<b>社会情勢等の変化</b> <ul style="list-style-type: none"><li>インフラ老朽化の加速</li><li>自然災害の激甚化・頻発化</li><li>人口減少・少子高齢化の進展</li><li>建設業を取り巻く環境の変化（予算の減少、担い手減少、働き方改革）</li><li>デジタル革命の加速（DX）</li><li>グリーン社会の実現に向けた対応（GX, CN）</li><li>国・市町の取組状況（群マネ、市町における技術者・予算不足）</li></ul>	<b>本県におけるこれまでの取組</b> <ul style="list-style-type: none"><li>長寿命化計画策定により、26施設が予防保全型管理へ移行</li><li>維持管理・更新費用の把握</li></ul>
	<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"><li>インフラメンテナンスの技術継承・担い手確保</li><li>社会経済活動を継続させるためのインフラ機能の維持</li><li>維持管理予算の確保</li><li>維持管理における効率化・生産性の向上</li></ul>	<b>評価</b> <ul style="list-style-type: none"><li>インフラメンテナンスの取組に、一定の進捗が見られた</li><li>早期措置段階の施設が多く残り、予防保全型管理への本格的な移行ができていない</li></ul>

## 3. 社会インフラ長寿命化行動方針

- 『“持続可能なインフラメンテナンス”の実現』のため、「インフラメンテナンスの更なる効率化・高度化を推進」することを方針として定めるとともに、“直ちに”取組を進めていく上での考え方として、方策1～3を定める。

### 方針：インフラメンテナンスの更なる効率化・高度化を推進

#### 方策1：予算管理・県民理解の推進

##### ▶ トータルコストの最適化

- 予防保全型管理の深化※1
- 新技術・新材料の活用推進

##### ▶ 維持管理費の確保

- 国への働きかけ
- 啓発、広報活動の強化による県民理解の促進

方策1を効率的に進めるため、方策2、3を実施する

#### 方策2：人材確保・強化

##### ▶ 人材の確保

- 広報活動の強化

##### ▶ 人材の強化

- 官民が連携した技術力向上の取組

#### 方策3：仕組みづくり

##### ▶ デジタル技術の本格活用及びデータの利活用による効率化

- データ取得・管理・利活用の推進※2
- 新技術の活用推進

##### ▶ 他機関と連携する仕組みの構築

- 民間活力導入の推進
- 地域社会との連携
- 国との連携
- 市町連携・支援

#### ※1 予防保全型管理の深化

多くの施設で早期措置段階の施設が残る現状を鑑み、メリハリをつけた予防保全型管理を進めるための、取組の考え方を示す

- 早期措置段階施設：速やかな措置着手・完了
- 予防保全段階施設：目標管理水準の遵守
- 対策の優先順位の設定：災害時の機能維持や、施設の利用状況等を考慮
- 設計・計画時：維持管理の容易さや確実性に配慮

##### ポイント

- 予防保全段階を維持するための対策
- 対策の優先順位に、全ての施設において、災害発生時の機能維持を重要度として設定

#### ※2 データ取得・管理・利活用の推進

- 利活用を前提とした、デジタルデータの取得・蓄積
- オープンデータ化による民間活力導入、AI解析を見据え、データプラットフォームの構築を検討

##### データ利活用イメージ

- 異常箇所の早期発見
- 新技術導入促進
- 計画の見直し etc



- ポイント：3次元点群データ、VIRTUAL SHIZUOKAの活用

#### 重点的な取組

- 長寿命化計画の見直し・・・本行動方針の内容や、新たな知見を反映するとともに、これまでの点検・診断等の結果を元に施設の劣化予測を見直した上で、各施設の長寿命化計画（ガイドライン、中長期管理計画等）について、令和8年度までに改定を目指す。
- データ利活用の検討・・・データ利活用を効率的に進めるため、利活用方法の検討やデジタル環境の整備、有用なデータの蓄積・取得を進めるとともに、データプラットフォームの構築や、AIによる解析を検討していく。

## 4. 『“持続可能なインフラメンテナンス”の実現』に向けて

『“持続可能なインフラメンテナンス”の実現』に向けて検討していくこと

- 方針に基づく取組とあわせて、10年先の将来を見据えて検討を進める。

- 社会インフラの集約・再編
- コンパクトなまちづくりの推進（コンパクト・プラス・ネットワーク）
- 社会インフラの新たな価値の創出

取組を進めるにあたっての推進体制等

- 効率的かつ確実にインフラメンテナンスを進めるための推進体制や留意点
- 「社会インフラ長寿命化推進会議」による進捗管理・情報共有
- 次期行動方針策定に着手する時期は、令和14年度頃とする